

災害時の避難所における要援護者の生活実態と介護福祉支援ボランティア

新潟医療福祉大学・岡田 史

1. 研修の背景

新潟県は2004年7・13水害、中越地震、2007年中越沖地震と立て続けに自然災害に見舞われた。(社)新潟県介護福祉士会では会則に会員のボランティア活動への支援を掲げており、筆者はその一員としてそれらの被災地でのボランティア活動に従事した。その活動内容は高齢者の在宅での環境整備や、避難所における要援護者に対する介護支援であり、介護予防を目的としたレクリエーションや見守り、共感的な傾聴等、様々なニーズに対応した活動であった。また、(社)日本介護福祉士会においても、阪神淡路大震災・中越地震・中越沖地震において介護福祉ボランティアを派遣しており、その活動は地元の介護福祉士会と連携しておこなわれ、全国各地から会員が派遣され、災害時の要援護者への支援を行っている。

2. 研究目的

本研究においては、これまで介護福祉士が災害時介護福祉支援ボランティアとして活動した経験の中から、避難所での生活の実態をまとめ、災害時要援護者支援のために必要な介護福祉支援ボランティアの課題を明確化することを目的とした。

3. 研究方法

①グループインタビュー調査

グループインタビューは合計3回行った(表2)。グループインタビュー対象者は、日本介護福祉士会災害時介護福祉支援ボランティア・マニュアル作成のための委員会出席者5名である(表1)。(インタビューでの内容の使用目的については同意を得ている)

第1回では、これまでの活動についての事実や気づきを自由に話してもらい、その後、カードにその内容を記述するブレインストーミング方式で、その活動の概要を探り、内容の整理を行った。

第2回では、先回のBS法により出された内容の整理を

行い、更に、時系列的に活動内容を聞き、時間の経過とともに被災地の状況や要援護者の生活実態の変化、そして活動内容の変化を確認した。

第3回は、前回までのインタビューを踏まえ、介護福祉士だからこそ気がついたこと、支援できたことはどのようなことかを中心にインタビューを行った。

表1 グループインタビュー対象者

所属	年齢	性別
兵庫県介護福祉士会	50歳代	女性
福岡県介護福祉士会	60歳代	女性
大阪介護福祉士会	40歳代	女性
東京都介護福祉士会	40歳代	女性

表2 グループインタビューの日時及び場所

回	日付(H20年)	時刻	場所
1	9月9日	13:30~	東京 新橋
2	9月23日	10:00~	東京 虎ノ門
3	10月19日	15:00~	新潟

4. 結果及び考察

避難所における生活実態を明確化する方法として、日本介護福祉士会が提唱する生活7領域アセスメントの考え方を利用した。生活7領域とは、生活を「衣」「食」「住」「からだの健康」「こころの健康」「家族関係」「社会関係」の視点から見つめ個々の生活の成り立ちや不都合を探っていく方法である。

災害によって崩壊した生活を再建していくプロセスは、時系列で考えることが重要である。避難所における生活は被災以前の生活の継続線上にあり、今後、生活が復興していくプロセスにおける一時点でもある。

介護福祉支援ボランティアは再建する姿を謙虚に見守りながら、効果的に支援することが大切である。

5. 参考文献

- 1) 日本介護福祉士会：生活7領域から考える自立支援アセスメント・ケアプラン作成マニュアル(Ver.4)(大型本)中央法規出版、2008.
- 2) 社団法人日本介護福祉士会、災害時における介護福祉支援ボランティア・マニュアル、2008